



JAPIC NEWS

JAPIC 一般財団法人 日本医薬情報センター
Japan Pharmaceutical Information Center

Contents

巻頭言

「原点をみつめる」

鳥居薬品株式会社 取締役 信頼性保証グループリーダー 假屋 ゆう子 2

インフォメーション

発刊!「JAPIC医療用医薬品集 普及新版2015」 4

薬系大学新1年生向けに日本の医薬品 構造式集 2015を無償提供! 4

平成27年度JAPICユーザ会開催案内 5

平成27年度 学会等 出展予定 5

発行しました。JAPICガイド2015 5

コラム

最近の話題「アカデミア創業潮流とともに変貌する医歯薬学系研究」
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科創薬薬理学 教授 植田 弘師 6

最近の話題「医薬分業の必須条件「薬歴を活用した疑義照会」」
東京理科大学薬学部 教授(薬局管理学) 鹿村 恵明 8

くすりの散歩道 No.84「オーロラとジビエ料理の国ノルウェー」
(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 今 栄子 10

おすすめの一冊「カナダの医薬品集」 11

トピックス

JAPICサービスの紹介
医薬品等の適正使用に役立つ品質・有効性・安全性に関する情報提供サービス 12

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋) 14

図書館だよりNo.298 情報提供一覧 15

4

2015 | No.372

原点をみつめる

鳥居薬品株式会社 取締役 信頼性保証グループリーダー
 假屋 ゆう子 (Kariya Yuko)



先日、日本経済新聞の中で「日本には創業100年以上の企業が全国に20,000社以上ある」という記事が目にとまりました。それをきっかけに調べてみたところ、日本には創業100年以上の企業が、全国に2万7,441社（（株）東京商工リサーチ・2012年調査・データを読むより）あり、最古は飛鳥時代に四天王寺建立のために創業した社寺建築企業、（株）金剛組で創業1435年とありました。その他にも1,000年を超える業歴をお持ちの企業は旅館、建設、農機具鋳物業、宗教用具製造など7社が実在すること、日本の歴史の長さを改めて認識しました。

また別の資料では、「創業200年以上の企業数」のランキングが示されており、世界第1位は日本で3,110社、第2位ドイツの1,563社の2倍、第3位フランスの331社の10倍とのことで（後藤俊夫著「3代、100年潰れない会社のルール」より）その多さは、想像以上と感じました。製薬企業に目を転じて、薬そのものは数千年の歴史があるとされるものも多く、その和漢薬、丸薬など古くから大切に守り、作られている企業は多数存在します。これらは基軸となる伝統を重んじ、先達に学ぶという古来より日本人が受け継いできた精神がなせる技に他なりません。

私たち製薬企業にとって医薬品はもちろん「商品」ですが、その基軸は「人々の健康を守るため、病気を治す」ことにあります。そのため、高い倫理性や透明性が求められ、特に企業活動に対してはその気運がより強くなってきています。

医療においても、医師へのお任せ医療から、各種メディアやインターネットの発達による情報収集の簡便化

によって、患者さん一人ひとりが医療情報にも触れられるようになった事、患者中心の医療、インフォームド・コンセント、さらにはチーム医療やインフォームド・チョイスが推進されるなどの環境変化が見られます。加えてSNS等により個人による情報発信が容易になり、だれでも自分の意見を伝えられること、多くの情報が氾濫する中、迷路にはまり込んでしまうケースも多く、正しい情報は何かを見極める能力が強く求められる時代は今までになかったと思います。

そのような時代だからこそ、基軸となる伝統、精神を守ることも、時代の変化を柔軟に受け入れ変革し、どのようにより良く業務を遂行し、永きに渡る信頼を得ているのか等、老舗企業の考えを学びつつ、自身の業務も改めて見直す必要があると思っています。

昨年薬事法から改正施行された医薬品医療機器法の精神もその根幹になるものの一つであることは言うまでもありません。

各所でお聴きする法改正の目的は、「医薬品等の使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止のため」であること、そのために国、都道府県、医療関係者、国民及び医薬品等関連事業者の責務も明記されたことが繰り返し説明されています。

医薬品等関係事業者にあたる私共製薬企業にとっては、ご提供する医薬品については、開発段階における科学的情報の収集、評価はもちろん、リスク管理計画などに代表される市販後段階における情報収集と評価の実

施、それらに基づくベネフィット・リスク・バランスのとれた新たな情報提供がより求められるようになってきました。

顧客が求めているものは何か、どのような形で提供するのがよいのか等、より意識して科学的根拠に基づき、判りやすく提供して行くことが我々の責務になっており、自部門の名称である「信頼性保証」、製薬企業としての信頼を保証する、とても崇高で、難しい業務ですが、どう継続していくかは永遠の課題だと認識しています。

弊社は現在、アレルゲン免疫療法という治療法の国内での正しい普及に専門の先生方とともに挑んでいます。

アレルゲン免疫療法は1911年Dr.Noonが注射による方法をLancetに論文を発表されて以来、世界的に実施されているアレルギー疾患の治療法の一つです。この治療法は、患者様のアレルギーの原因となっている、例えばスギ花粉から抽出した抗原を少しずつ投与することで体を慣らし、反応性を下げていく方法で、弊社が約50年前から注射用の製品をお届けしております。ところが、治療には3年程度の通院が必要なこと、ノンレスポnderの方がいらっしゃる、その治療効果は主観的評価が中心であること、アナフィラキシーショックの発現危惧があるなどいくつかのハードルがあり、有効な対症療法薬である抗アレルギー薬の発売や、弊社におけるアレルゲン免疫療法に関する情報提供が不十分なこともあり、日本では徐々に実施いただいている医療機関が減っております。

しかし先の欠点を補完すべく先生方による投与方法の工夫や製剤技術の進歩と共に、1990年代以降の免疫学の進展によって多くの現象が証明され科学的根拠の確認もなされてきました。

花粉症が国民病といわれる等アレルギー疾患については、環境や食生活の変化等の影響を受け、患者数も増加傾向をたどっており、そのような患者さんを救うために、2014年には「アレルギー疾患対策基本法」も国会で可決されるに至っております。

どのような疾患においても、患者様ごとに治療に際して何を大切に、どんなニーズを優先されたいかはさまざまです。アレルギー疾患は時に命を脅かす病ですが、一般

的には慢性疾患として日々の生活をいかに症状なく過ごしていただくかが治療の主体になっていくものと考えています。ですので、患者様のニーズに少しでも近い治療を選択し満足していただくために、数ある治療法の一つとして、あらためて医療関係者のみならず患者様にもアレルゲン免疫療法を正しく理解していただく事、そしてそのための製品とともに、情報をご提供していくことに注力してまいります。

今まで製薬企業の情報提供先は、主に医療関係者、医師や薬剤師の方々が中心でしたが、その先生方と共に、何よりもまず患者様の安全性を確保するためにどのように情報をお伝えしていくか、そのために私共が何をすべきか等を先生方からご意見をいただきながら考えていく事も、医薬品医療機器法で求められている責務の遂行にあたりと考えています。

最近、行政の方から「法改正は患者さんを守り、より安心して医療を受けていただくための手段ですね」と、薬剤師の先生から「薬の専門家としての自負と責務を全うするために自分が何をすべきかを常に考えている」とお聴きしたことが繰り返し思いだされます。

自分たちの行動は、常に患者様やその治療に当たられている医療関係者の方達のお役に立っているのか、過不足のない情報提供は出来ているのか、医薬品製造販売を生業とする者として常に自問自答し、基軸に立ち返りながら業務の継続性、一貫性を追求していきたいと思えます。

最後になりましたが、JAPICさんにはこのような情報提供を実践するための土台となるタイムリーな情報を常に提供いただき、感謝致しております。この広範にわたる情報収集を揺るぎなく地道に実施いただいている努力とその情報提供に感謝しつつ、今後も会員の皆様と連携し、世の中のニーズにあった情報の発信をお願いして、結びたいと思えます。

発刊！『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2015』

毎年大好評の『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2015』を発刊しました。

本書はコンパクトなA5判で2015年1月までの添付文書情報を収録しておりますので、毎年8月発刊の医療用医薬品集のハンディ版あるいは追補版としてもご活用頂けます。

《本書の特長》

- ・「JAPIC医療用医薬品集」収録内容から臨床で利用する頻度の高い〔組成、効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意（相互作用、副作用、妊娠授乳婦投与、高齢者投与、小児投与等）、半減期〕を抽出、要点に絞って編集し、一回り小さいA5判のハンディサイズにまとめました。
- ・2015年1月時点までの約2,100成分、約21,000製品の最新医療用医薬品情報を収録しております。
- ・医療用医薬品集に比べページ数は約半分となり、価格もお求めやすくなっております。

価格：4,800円（+税）。A5判 約1,700ページ（販売：丸善出版株式会社）



薬系大学新1年生向けに 日本の医薬品 構造式集 2015を無償提供！

薬学教育支援の一助として、本年度も3月末に日本の医薬品 構造式集 2015を無償提供しました。薬系大学に入学予定の1年生向けに「日本の医薬品 構造式集」のご利用の希望数を伺い、本年度は14,000枚を超える数の回答が寄せられ、3月末に送付いたしました。

医薬品についての知識や技能の習得を補い、いくらかでも薬学と薬剤師教育の発展と高度化にお役に立ちたいとの思いから、薬系大学への「日本の医薬品 構造式集」の無償提供を毎年実施しており、提供先大学からは、教育現場で広く有効に利用されているとのご報告をいただいております。

このような事業を継続できますのもJAPIC会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。



日本の医薬品 構造式集

- ・「JAPIC医療用医薬品集2015」収録成分から一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約1,400成分の構造式を収録しております。薬剤師はじめ化学、薬学領域の学生・研究者にとって不可欠な内容です。
- ・各成分には構造式のほか、一般名・化学名・薬効分類・効能効果・CAS Registry number・分子量・分子式を記載しております。

価格：1,800円（+税）。B5判 約200ページ（販売：丸善出版株式会社）

平成27年度JAPICユーザ会開催案内

平成27年度のJAPICユーザ会を下記の日程で開催します。

詳細は次号及びホームページでご案内します。

☆平成27年6月 9日(火) 13:00~17:00 東京 日本薬学会長井記念ホール

☆平成27年6月12日(金) 13:00~17:00 大阪 大阪ブリーゼプラザ

平成27年度 学会等 出展予定

大会名	期間	開催地
第29回日本医学会総会2015関西	4月10日~12日	京都市勧業会館 みやこめっせ
第18回日本医薬品情報学会総会・学術大会	6月27日~28日	岡山大学津島キャンパス 一般教育棟
国際モダンホスピタルショー2015	7月15日~17日	東京ビックサイト
第35回医療情報学連合大会	11月1日~4日	沖縄コンベンションセンター カルチャーリゾート フェストーネ
第21回日本薬剤疫学学会学術総会	11月7日~8日	日本薬科大学 さいたまキャンパス
第25回日本医療薬学会年会	11月21日~23日	パシフィコ横浜
第48回日本薬剤師会学術総会大会	11月22日~23日	鹿児島市民文化ホール・宝山ホール・ 鴨池ドームほか
第136年会日本薬学会	平成28年 3月26日~29日	パシフィコ横浜

*開催内容につきましては変更される場合があります。

発行しました。

JAPICガイド2015

4月に2015年版を発行しました。本書はJAPICの事業活動を一覧でき、内容を簡単に把握できることを目的に毎年発行しております。JAPICの会員制度をはじめ、医薬品・医療機器の安全性に関する情報提供、電子データ、医薬品情報に関するデータベース、医薬品情報に関する出版活動等についてそれぞれの概要、特長、利用方法などを掲載しております。また、附属図書館主要蔵書リストも掲載しております。JAPICのサービスや全体像を把握する際の参考資料としてご利用ください。ご希望の方には無料でお送りしますのでお申し込みください。

お問合せ先: 事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276)

最近の話題

アカデミア創薬潮流とともに変貌する 医歯薬学系研究

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科創薬薬理学 教授
植田 弘師 (Ueda Hiroshi)



40年近く薬学あるいは医学部に籍を置き、基礎医学研究に労力を注いできた。この期間に、私の分野では痛みや心の動きが特定の分子の働きとして説明できるという研究が始まり、ついでのシグナル機構解明や受容体クローニング、さらには遺伝子欠損動物による個体レベルでの検証研究がなされてきた。基礎研究に携わる研究者はこうした研究から優れた創薬治療研究につながると半ば信じてきたが、現実として殆どが空論で終わってきた実感がある。企業に持ち込んでも大抵は思いの詰まった情報を提供するも、残念ながら開発テーマとしては採択されませんでした、という返事が殆どであった。多くの場合開発リスクが高いという説明をされるが、アカデミア研究者にとってはそこが面白いところなので、一向に両者の関係は詰められることは無かった。

こうした状況にメスが入ったのが、文科省ライフサイエンス科のターゲットタンパク研究プロジェクトTPRP活動であった。その中の制御分野では我が国発の公的低分子化合物ライブラリーの構築がなされた。幸運にもその運営にプログラムオフィサー (PO) として関与させていただき、品質の良い合理的な化合物ライブラリーの完成となった。このTPRPの後継の創薬等支援技術基盤プラットフォーム (PDIS) 事業では化合物ライブラリーを用いた創薬スクリーニング事業が含まれ、独創的な創薬シーズについてその制御化合物を全国の研究者自ら探索することができるようになった。しかも、PDISの中にある解析拠点では標的蛋白質生産、結晶解析の支援が得られ、制御拠点ではスクリーニングの他、合成支援なども得られ、我が国全体における最高水準の研究グループから形成される創薬基礎探索研究システムが構築された。大手企業の探索研究に匹敵する課題に取り組むことも可能となってきた。

しかし、いわゆる「死の谷」と呼ばれる、探索研究から非臨床試験・早期臨床試験までの間の橋渡し支援が殆どなされていないという問題点があった。非臨床試験・早期臨床試験研究は科研費等の基礎研究では経費面で不可能に近いものであった。しかし、この問題は数年前に設立された「創薬支援ネットワーク」により改善されるきざしが見えてきた。この組織は理化学研究所、医薬基盤研究所、産業技術総合研究所により構成され、ここでは探索研究を終えた有望化合物を非臨床試験・早期臨床試験にまで支援するというものであった。さらには平成27年度からは文部科学省、厚生労働省、経済産業省からのファンドで運営される「独立行政法人日本医療研究開発機構」(通称AMED: Japan Agency for Medical Research and Development) が立ち上がり、「死の谷」を克服すべく、創薬探索研究から非臨床試験・早期臨床試験までを一括して支援されることになった。まさに国を挙げて創薬研究を行うこととなったのである。しかも稀少疾患・難病までもが支援されることとなっている。従って、製薬企業の支援が得られないからアカデミア創薬研究ができない、という理由はもはや成り立たなくなってきたのである。ただ、治療薬として世に出せるようにするには大きなハードルはあるが、このことは製薬企業でも同様である。それは別の課題としてとらえなければいけない。

このように医学関連の基礎研究者が取り組みたい創薬研究を実現するという事は満たされつつあるが、国として国民医療として、そもそもアカデミア創薬は必要であるか、という問題に答えることも重要である。これまでも多くの総説にも取り上げられてきた話題であるが、最近では「AMED創設」に関連する優れた研究論文¹が参考になる。この資料によると、市販薬の由来する国として

は感染、がんの分野では、米国44%に対し、我が国では20%と比較的よく健闘しているが、研究開始から承認・発売にいたるまでの開発品を意味する医療用医薬品候補化合物「パイプライン」薬では、がん、感染、神経系疾患において、米国は世界の61%を占めるが、日本初のパイプラインの割合は9.1%に過ぎない。この数字を見る限り、今後我が国で使用される薬の殆どが米国発のものになる可能性が高まってきた、と言えるかも知れない。

事業主体で見たときには、世界レベルでは、がん、感染、および免疫・アレルギー分野において、1番目に多いのは中小企業等であり半数近くを占めているが、2番目にパイプラインを多く有する事業主体は「大学」であり、大企業に迫る程度のパイプラインを有している。つまり、大学での創薬探索研究は製薬業界にとって必須のものとなりつつあることは読み取れる。実際、オープンイノベーションという名目で大学の創薬シーズの募集を行う事が我が国でもとみに増えてきている。先の記述と合わせて考慮すると、米国の大学が創薬のパイプラインを大きく担っており、こうした状況が我が国におけるアカデミア創薬の必要性を後押ししていると言えるだろう。

さて、私のアカデミア創薬との関わりは、平成22年度に立ち上がった文部科学省最先端研究基盤事業「化合物ライブラリーを活用した創薬等最先端研究・教育基盤の整備」にスクリーニング領域拠点として、長崎大学が北海道大学、東北大学、京都大学、大阪大学、九州大学とともに選定されたことに始まる。運用のために続いて、創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業「大型創薬研究基盤を活用した創薬オープンイノベーションの推進」として支援されることとなり、現在3年近く活動している。長崎大学拠点の正式名称は「感染症・放射線障害創薬を中心とする下村脩博士ノーベル化学賞検証記念創薬拠点における研究支援と高度化」となっており、世界的にも関心の高い2つの課題、感染症・放射線障害創薬をミッションとしている。本拠点では熱帯医学研究所、放射線後障害医療研究所の研究者とともに、それぞれ全国ネッ

トワークを形成し、各研究機関から創薬シーズを預かり共同研究としてスクリーニング事業を支援・高度化するという体制を取っている。スクリーニングの方法としてはハイスループットスクリーニングとして多検体の活性を一斉に評価する方法や高速ワークステーションによる分子動学的解析やスパコンによる超高速計算科学を活用し候補化合物を絞り込むという手法を駆使している。感染症・がんでは免疫療法として前臨床試験レベルの研究、エボラ出血熱創薬にも取り組み、放射線障害では実験動物に放射線照射したときに認められる傷害を保護する活性を有する有望な化合物も得ている。長崎大学拠点ではこの他にも独創的な創薬研究、すなわち様々な神経障害性疼痛や線維筋痛症に関連する合成酵素や受容体、エピゲノム性の制御分子、新しいメカニズムによる脳梗塞治療薬、骨粗鬆症治療薬などにも取り組んでいる。目に見える成果が出るまでには残り数年がかかる見込みであるが、確実にアカデミア創薬は浸透しており、こうした潮流は基礎ならびに臨床の医歯薬学分野の研究戦略に大きな影響を与えつつある。

1 参考文献

長部喜幸、治部真理、AMED（日本版NIH）創設に向けた新しい指標の開発 (6) 疾病別にみた医薬品開発の現状俯瞰・将来予測、情報管理vol. 57, no.5, 323-333, 2014

最近の話題

医薬分業の必須条件 「薬歴を活用した疑義照会」

東京理科大学薬学部 教授(薬局管理学)
鹿村 恵明 (Shikamura Yoshiaki)



医薬分業の現状

日本では他の先進国のような完全医薬分業の体制が確立されていないものの、医薬分業は年々進展しており、現在、日本全国の処方せん受取率(分業率)は70%近くになっている。しかし、期待していたほど医療費の抑制につながっていない等の問題点も指摘されており、医薬分業の明確なメリットを示すことが求められている。

薬歴とは

薬歴とは、「薬剤服用歴管理指導記録簿(以下、薬歴とする)」のことを指し、薬局で記録される「薬のカルテ」と説明されることもあるが、単なる処方された医薬品の記録ではなく、患者個々に対する既往歴、現病歴、副作用歴、アレルギー歴や、どのような調剤が行われたか(錠剤が飲めないため粉砕して調剤する等)などの情報を継続的に記録し、患者の薬物療法の安全性と有効性を確保するための記録である。なお、医師が診療した根拠となるものは診療録であるが、薬局薬剤師が調剤をした根拠となるのは薬歴ではなく、「調剤録」という調剤内容の記録である。そのため、薬剤師が薬歴を記載することは、法的な必須事項ではない(ただし、保険調剤報酬としての薬剤服用歴管理指導料を算定した場合には必須となる)。しかし、薬歴は医療安全の観点からは、なくてはならないものである。

薬局薬剤師による疑義照会

薬局薬剤師が医療の質の向上に貢献するための手

段のひとつに「疑義照会」がある。疑義照会は、薬剤師が処方せんを受け付けてから患者に薬剤を交付するまでに生じた問題点や疑問点を処方した医師等に確認する業務であり、薬剤師法第24条【処方せん中の疑義】では、「薬剤師は、処方せん中に疑わしい点があるときは、その処方せんを交付した医師、歯科医師又は獣医師に問い合わせて、その疑わしい点を確認した後でなければ、これによって調剤してはならない。」と定められており、薬剤師には疑義照会を行う義務がある。

疑義照会は大きく分けると「形式的疑義照会」と「薬学的疑義照会」の二つに分類される。形式的疑義照会は、処方せんへの記載事項である保険番号、処方せん発行日、医療機関名、処方医名などの記載漏れ、および処方した医薬品の名称や規格単位、用法用量等、処方内容の記載不備や記載漏れにより生じるものである。つまり、形式的疑義照会の原因は医療機関側の事務的な不備である。一方、薬学的疑義照会は薬剤師ならではの視点で薬学的知識を基に処方チェックをした結果、発生するものであり、一緒に処方された医薬品同士の重複や相互作用を防止するだけでなく、他の診療科から処方された医薬品やOTC薬(市販薬)との飲み合わせの確認、さらに患者の現在の疾病、既往歴、副作用歴、アレルギー歴等の情報を含めて処方の方の妥当性を評価し、患者の安全な薬物療法に貢献するものである。なお、2013年に筆者らが行った全国薬局疑義照会調査では、疑義照会率は2.75%(調剤した処方せん枚数中の疑義照会を行った処方せん枚数の割合)という結果であった。

保険薬局に対する保険指導について

保険薬局に対しては、厚生労働省や地方厚生局による保険指導が実施されている。保険指導の目的は、適正な保険診療・保険調剤を確保し、加えてその質を向上させるとされている。保険指導における指摘事項の内容は、医薬品添付文書に記載された情報を基本としており、たとえば、医師から医薬品医療機器等法（旧薬事法）の承認を得た使用方法以外の処方指示があった場合には、薬剤師に疑義照会の実施を求めている。事例を挙げると、「テオドール[®]錠の1日2回朝夕食後投与（添付文書の記載では1日2回朝及び就寝前、あるいは1日1回就寝前に投与）」や「ミカルデイス[®]錠の1日2回投与（添付文書では1日1回投与）」などが該当している。このような内容の保険指導は毎年繰り返行われているため、その理由を探るために筆者らは2009年に薬局薬剤師に対し、疑義照会に関する意識調査を行った。その結果、薬局薬剤師は単に添付文書上の文言との相違のみを理由として医師に疑義照会することに躊躇している実態があり、前述したテオドール[®]錠やミカルデイス[®]錠の服用時点に関する指摘事項等に関しては、医師に疑義照会をする必要性が高いとは考えていないことが判明している。そのため、保険指導の内容については、添付文書に記載された内容をそのまま指摘するような画一的な指導とならないよう改善すべきと考える。なお、高齢者などでは、夕食後と就寝時間の間隔があまり空いていない方も多く、筆者はテオドール[®]錠の1日2回朝食後・就寝前投与と1日2回朝夕食後投与との間で、薬の効果に大きな影響を与えるほどの差があるとは考えていない。また、医薬品製造業者に対しては、医薬品の製造承認を受ける際には、このような服用時点の違いによる効果の差があるのか否か等について、きちんとデータを収集し、添付文書にその根拠を記載されることを希望する。

おわりに

薬局薬剤師が患者の薬歴を活用して薬学的疑義照会を行うことは、医薬分業の大きなメリットであると考えている。しかし、残念なことに最近、一部の薬局が薬歴を記載していないにもかかわらず、薬剤服用歴管理指導料の保険請求をしていることが判明した。これは保険の不正請求という点で大きな問題であるが、薬歴を記録せずに調剤するというのは、患者が薬物療法をする上での安全性が担保されておらず、薬剤師の職能を放棄した状態である。今後、このようなことが二度と起きないように、薬局薬剤師は高い倫理観を持って業務を行うことを願う。

保険指導の内容については、医薬品医療機器等法の承認内容をもとに画一的な指導を繰り返したとしても、患者のメリットも少なく、薬剤師の質の向上につながる可能性も低いと思われる。特に服用時点については、患者の生活サイクルや併用薬の状況などから薬剤師が判断したほうが、服薬コンプライアンスも上昇し、より良い薬物療法につながるものと考えられる。実際、海外では医師の処方指示は服用回数のみで服用時点の記載は不要となっているため、日本においても薬剤師の判断に任せるよう改善するべきではないだろうか。また、薬剤師の能力は薬学的疑義照会の内容を確認することによってある程度の推測ができるため、保険指導では、薬学的疑義照会の内容をもとに薬剤師と面談を行い、業務内容を評価することを提案する。

薬局薬剤師には、薬物療法の適正化に貢献することが求められており、医療関連情報や患者からの情報を十分に収集し、得られた情報を基に薬学的判断を行い、その患者固有の問題点が解決できるようになることを期待する。



オーロラとジビエ料理の国ノルウェー

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当
今 栄子 (Kon Eiko)



皆さんはオーロラをご覧になられた事がありますか？私は15年程前、夫の海外赴任でノルウェーのオスロに在住した際、幸運にも見る事が出来ました。ノルウェーでのオーロラ観測は北極圏であるトロンソが有名ですが、ノルウェーの首都であるオスロはノルウェーの南に位置する為、オスロでオーロラを見る事が出来るのは非常に珍しいそうです。オスロでオーロラが観測出来た翌日には地元の新聞でもニュースになります。青や緑のグラデーションのカーテン状の帯の光が夜空に光輝き、まるで生きているかの様にゆらゆらと移動する姿は美しく、自然の神秘を感じることが出来ました。昨年の秋頃に何回か太陽面中央付近の大型太陽フレア及び地球方向へのコロナガスの放出が確認され、北海道でも十数年かぶりに低緯度オーロラ観測が期待できるというニュースをインターネットで目にしました。もしかしたら北海道へ行けば極地ほど派手でなくとも運が良ければオーロラを見る事が出来る時があるかも知れません。

ノルウェー料理と言えば、スモークサーモンが有名ですが、魚介類ではタラ、ニシン、サバ、イワシ等を天日干しもしくは燻製にしたものを近所のスーパーマーケットでよく目にしました。また、エビ(主に甘エビ)はトロール船で捕獲したものが茹でた状態で量り売りで売られており、それをいつもおやつ代わりに息子と近所の港のベンチに腰掛け海を見ながら食べていました。肉類ではヘラジカ、トナカイのノルウェーならではのジビエ料理があり、自ら狩りに出向いて得た獲物を売ったり人に贈る事もあり、贈答用として広く販売もされています。また、野生動物の肉というと、エキノコックス症が心配されますが、エキノコックス症は腐肉を食べた肉食または雑食性(例えばキツネ等)の動物がなるもので、シカがエキノコックス症になった例はあまりないそうです。また、エキノコックス症自体良い駆除薬が使えるようになり、昔の様に不治の病という訳ではなく、怖い病気に違いはありませんが、薬と手術でかなり良くなるとの事です。むしろシカ肉よりBSEの問題があるウシ、残飯等何でも食べるブタの方がはるかに安全性に問題があるのかも知れません。ウシやブタは抗生物質を使う事がありますし、農薬を使って栽培した牧草や輸入飼料で育てているウシやブタが安全だと

いう保障ありません。その点シカが食べている草はほぼ100%自然な草なので安心して思われます。ジビエ料理は高級なのであまり日常的に食しませんでしたが、ヒツジ(ラム肉)は非常にクセがなく美味しく、ラムチョップ、サワークリーム入りのシチュー料理にしたり、ジャガイモに包んで蒸し料理にしたり、クレープの様な平たいパンやパイ包みにして食べていました。野菜については国土の多くが農耕に適さないノルウェーの不毛な土地ゆえ、アメリカやスペイン等からの輸入が多いのですが、日本にあるメジャーな野菜はほぼそろっていました。乳製品はとても豊富で脂肪分の含有量が細かく分類された種類の牛乳やヨーグルトがスーパーマーケットにずらりと並んでいて、特にチーズは美味で、日本では馴染みのないゴートチーズは、同じ山羊乳から作られたシェブルチーズほどクセはなく、不思議な味わいで食べ慣れるとクセになってしまうでしょう。山羊乳のホエーが主な原料で、そこに新たな山羊乳やクリームを添加して作られているのですが、原料を火にかけて通常よりも高い温度で熱を加えて煮詰めているのでキャラメルのような色をしています。少しねっとりとした食感で甘味もあり、コーヒーや紅茶のお茶請けとしても良く合います。また、ちょっと変わった食べ物として、ラクリス入りのキャンディー、チョコレート、ガム、グミ等のお菓子があります。ラクリスは生薬としてよく使われる甘草の根のエキスを使用して作られたもので、欧米等では「リコリス」や「ラクリッツ」とも呼ばれていて、アンモニア臭のする塩味のラクリスを愛するノルウェー人は多く、お菓子屋さんでも塩味のラクリスのものがよく売っていました。しかし、個人的にはその味は非常に不味く、喉を通過出来る代物ではありません。白い粉のついた黒い物体のお菓子には要注意です。

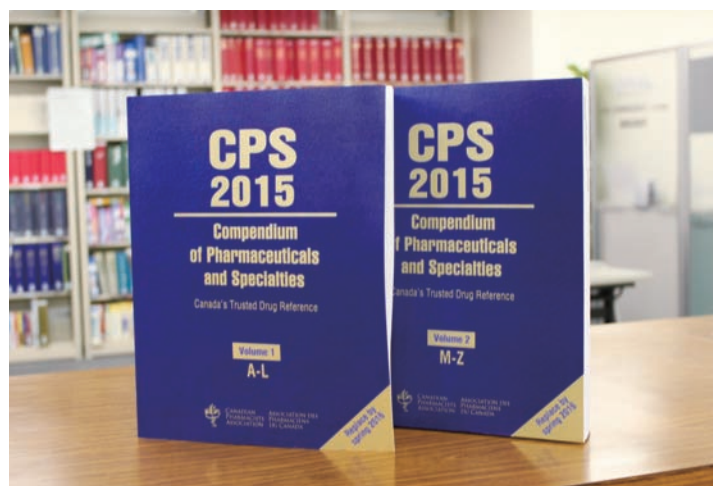
食べ物の話ばかりになってしまいましたが、もうすぐお花見のシーズンでもありますし、夜桜見物の際、ノルウェー料理をつまみにお酒を飲みつつ、夜空を見ながらオーロラを想像してみたいかがでしょう。

(日本に帰国して以来、一度もノルウェーには行ってないので、古い情報があるかも知れません。)

おすすめの 一冊

JAPIC 所蔵の書籍のご紹介 ～海外の医薬品集編～

■ カナダの医薬品集



書名	CPS 2015 Compendium of Pharmaceuticals and Specialties Volume 1 A-L Volume 2 M-Z
出版社	Canadian Pharmacists Association
出版国	カナダ (英語)
ISBN	978-1894402835

従来1冊 (約3,000ページ) で刊行されていたが、2015年版より2分冊 (約1,700ページ/冊) での刊行となった。カラーの剤形写真や索引はこれまでのものを引き継いでおり、製薬企業の一覧や治療ガイド、製品名索引、中毒センターや製薬企業の住所録を掲載している。また、2015年より新しくNarcotic and Controlled Drug Regulations (麻薬と規制医薬品の規則) に関する情報が掲載された。他に、これまでAppendix (付録) 扱いだった略語集や、カナダの副作用報告用紙なども本編に掲載している。

更新情報はインターネット<www.pharmacists.ca/cpsupdates>より閲覧できる。

JAPIC 附属図書館は日本で最も多くの海外の医薬品集を収集している図書館です。
一般公開ですので、どなたでもご利用いただけます。受付カウンターで入館手続きをお済ませの上、お入りください。
(※貸し出しはいたしませんので、ご了承ください。)

開館日/時間: 月～金 9:00～17:30

休館日: 土・日・祝祭日、年末年始 (12月29日～1月4日)

[お問合せ先] 図書館部門

TEL 03-5466-1827 E-mail: tosho@japic.or.jp

❖ JAPICサービスの紹介 ❖

医薬品等の適正使用に役立つ品質・有効性・安全性に関する情報提供サービス

医薬品・医療機器の文献・学会情報、国内外規制措置情報等の提供・支援（受託安全確保業務のサポート）

医薬品・医療機器情報

速報的な情報提供

国内

文献・学会情報

JAPIC-Q (医薬文献・学会情報速報)

医薬品の品質・有効性・安全性に関する情報を提供(週1回)

JAPIC-Q医療機器情報

医療機器の品質・有効性・安全性に関する情報を提供(月2回)

海外

文献・学会情報

海外文献学会カスタマイズ情報

海外 国内

規制当局からの情報

JAPIC Daily Mail (JDM)

海外規制当局等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報を提供(毎日)

Regulations View

米国の「Federal Register」を情報源とし、FDAを主とした規制に関する情報の日本語概要を提供(月2回)

遡及的・網羅的な情報提供

海外 国内

文献・学会情報

外部データベースを利用した文献検索サービス

海外 国内

文献情報

承認ニュース情報

JAPIC Pharma Report
—海外医薬情報

(月1回)

速報

海外 国内

大規模安全性情報サービス

JAPIC AERS

米国FDAのFAERSデータと日本のPMDA副作用が疑われる症例報告データ(JADERデータ)を調査・検討して提供(随時)

生物由来製品の感染症情報

速報的な情報提供

国内

文献・学会情報

JAPIC-Q Plus

海外 国内

公的機関HPからの情報

JAPIC Daily Mail Plus

遡及的・網羅的な情報提供

海外

文献情報

PubMed代行検索

受託安全確保業務 (GVP対応) のサポートサービス

JAPIC-QX

JAPIC-Qの検索結果を各社様のご要望に応じて、より検討しやすく加工し提供 (随時)

トムソン・ロイターとの提携により **医薬品**・**医療機器** の
海外文献学会情報を提供 (週1回)

JAPIC Daily Mail Extra

JDMの内容から個別の成分、製品に関する情報を選択し提供 (毎日)

JAPIC Weekly News

JDMから抜粋した情報を医療機関ならびに医薬教育機関向けに再録し提供 (週1回)

医薬品・**医療機器** についてご要望に応じた各種データベース
(MEDLINE、EMBASE、医中誌Web等) 検索結果を提供 (随時)。
更にデータ加工も可能

JAPIC-Q海外情報

「JAPIC Pharma Report海外医薬情報」からの
医薬品 の適正使用情報を提供 (月1回)

ご登録の動物種ごとに検索した結果を提供 (月1回)

日本語概要、KW(感染症、動物種)、
該当文書へのリンク等を提供 (週1回)

ご登録の動物種・医薬品ごとの検索結果を提供 (月2回)

個別ニーズに応じた
受託安全確保業務の
総合サポート

- 総合的、個別的メニュー化サービス
- 社内GVP管理票、報告書案等GVP管理・整理資料の作成・提供
- 電子媒体等提供サービス

各社様のご相談をお受けしています

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2015年2月1日～2月28日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.489-492)の記事から抜粋

■米FDA

- CERVARIX (ヒトパピローマウイルスワクチン) : 添付文書の改訂
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/Vaccines/ApprovedProducts/ucm434787.htm>>
- Fluzone Quadrivalent (インフルエンザワクチン) : 添付文書の改訂
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/Vaccines/ApprovedProducts/ucm435212.htm>>

■米CDC

- 新生児離脱症候群のための州全体のサーベイランスシステムの実施—米Tennessee, 2013年
<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6405a4.htm?s_cid=mm6405a4_w>
- Notes from the Field: 汚染したダイエタリーサプリメントに関連した早産児における致死性の消化管型ムコール症 - 米Connecticut, 2014年
<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6406a6.htm?s_cid=mm6406a6_w>

■Health Canada

- 皮膚癌治療薬Zelboraf (vemurafenib) —肺炎のリスクに関する新たな警告
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2015/43697a-eng.php>>
- risperidone : 認知症に対する適応の制限
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2015/43797a-eng.php>>

■EU・EMA

- Article 30 referrals : Nasonex (mometasone furoate) (更新情報)
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/Nasonex_30/WC500177652.pdf>
- PRACはhydroxyzine含有医薬品の既知の心臓リスクを最小化するため新たな措置を勧告
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2015/02/WC500182462.pdf>

■英MHRA

- INOmax (nitric oxide)シリンダー : 一部のシリンダーにおいてバルブの欠陥によりガスのデリバリーが早期に止まるおそれがある
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/inomax-nitric-oxide-cylinders-valve-defect-might-stop-gas-delivery-early-in-some-cylinders>>

■独BfArM

- polymyxin含有医薬品 (colistin, colistimethate sodium) : 欧州委員会の決定の実施について
<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/a-f/colistin.html>
- dihydroergotamineおよびdihydroergotoxine : 承認差し止めに関する更新情報
<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/a-f/dihydroergotamin2.html>

■仏ANSM

- ceftazidime, influenza vaccine, oxybutynin, apomorphine含有医薬品 : CMDhの2015年1月会合からの情報
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Ceftazidime-vaccins-contre-la-grippe-oxybutynine-medicaments-contenant-de-l-apomorphine-retour-sur-la-reunion-de-janvier-2015-du-CMDh-Point-d-Information>>

■豪TGA

- 非ステロイド性抗炎症薬 (diclofenac, flurbiprofen, ibuprofen, ketoprofen, mefenamic acidおよびnaproxen) の経口使用 : 医薬品のadditional advisory statements (案) に関するconsultation
<<https://www.tga.gov.au/consultation/consultation-non-steroidal-anti-inflammatory-drugs-diclofenac-flurbiprofen-ibuprofen-ketoprofen-mefenamic-acid-and-naproxen-oral-use-proposed-additional-advisory-statements-medicines>>
- warfarinのレビュー : 安全性に関する注意喚起
<<https://www.tga.gov.au/alert/warfarin-review>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介 : <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成27年2月1日～平成27年2月28日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
CPS 2015 Compendium of Pharmaceuticals and Specialties	Canadian Pharmacists Association	Canadian Pharmacists Association	2015年
MIMS Annual Hong Kong 25th Edition 2014/2015	edited by Ng Hui Ping	UBM Medica Pacific Ltd.	2014年
MIMS Annual 中国薬品手冊年刊 第18版 2014/2015	梁慧芬 編	CMP Medica Pacific Ltd.	2014年10月
DATA BOOK 2015	日本製薬工業協会 編	日本製薬工業協会	2015年
JAID/JSC感染症治療ガイド 2014	JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会 編	日本感染症学会	2014年12月
すべてExcelでできる!経営力・診療力を高めるDPCデータ	伏見 清秀	日経BP社	2014年11月
ナチュラルメディスン・データベース 健康食品・サプリメント [成分] のすべて	日本医師会、日本薬剤師会、日本歯科医師会 総監修	同文書院	2015年1月
今日の治療薬2015 解説と便覧	浦部 晶夫、島田 和幸、川合 眞一 編	南江堂	2015年1月
歯科医薬品処方集 ポケット版	全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会 編	医歯薬出版	2015年1月
治療薬ハンドブック2015 薬剤選択と処方のポイント	堀 正二 他 編	じほう	2015年1月

情報提供一覧

【平成27年3月1日～3月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report—海外医薬情報]	3月6日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2015年2月分 (HP定期更新情報掲載)	3月2日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [医療用医薬品集 普及新版2015]	3月9日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [日本の医薬品 構造式集2015]	3月9日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. [JAPIC NEWS] No.372 4月号	3月27日	5. 臨床試験情報	随 時
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		6. 日本の新薬	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.972-975 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	8. 医薬品類似名称検索	随 時
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
4. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.3355-3376	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉 http://database.japic.or.jp/nw/index	
5. [JAPIC Weekly News] No.492-495	毎週木曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
6. [Regulations View Web版] No.306-307	3月13日・27日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.582-586	毎週月曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
9. [JAPIC医療用医薬品集2015] 更新情報2015年3月版	3月31日	外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉 https://e-infostream.com/	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 http://jdream3.com/	
		〈株式会社日本経済新聞デジタルメディア日本テレコンから提供〉 http://t21.nikkei.co.jp/	

医療用医薬品集

普及新版2015

2015年
3月発行



本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約3,600頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。

約2,100成分、約21,000製品の医療用医薬品情報を2015年1月時点の最新情報で収録。

■掲載内容

- ◎一般名、製品名
- ◎承認日(一部製品)
- ◎組成(規格)
- ◎効能・効果、用法・用量
- ◎警告
- ◎禁忌、原則禁忌
- ◎慎重投与
- ◎重要な基本的注意
- ◎相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎副作用
- ◎高齢者への投与
- ◎妊婦・産婦・授乳婦等への投与
- ◎小児への投与
- ◎臨床検査結果に及ぼす影響
- ◎半減期

価格：**4,800**円(+税)

A5判/約1,800頁

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

のうるし

野添と書く。学名: Euphorbia adenochlora。トウダイグサ属。北海道、本州、四国、九州の川岸、湿地帯などに自生し群生する多年草。日本固有種。花期は4月頃。茎の頂きには杯状花序がつく。杯状花序には腺体があり蜜を出す。絶滅危惧II類。葉や茎を折ると白乳汁が出る。皮膚に付くと炎症を起こす。有毒。(hy)



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。